

< 今日の説教のポイント ルカによる福音書 22 章 24～30 節 >

1 (24) 最後の晩餐におけるイエス様と弟子たちのギャップに注目。

最後の晩餐でイエス様は全ての人の救いのために自らの命を犠牲とすることを示されました。しかしその時に 12 使徒たちの間で「自分たちのうちで誰が一番偉いだろうか」と議論が起こったというのです。「議論」は「争い、喧嘩、競争」とも訳せ、今の私たちも取ってしまうことのある姿だと思います。イエス様は何と言われたのでしょうか。

2 (25-27) 「偉い」を巡る二つの考え方。世の中では？ イエス様は？

「偉い」は、普通、良い意味で捉えられていると思いますが、ここで「偉い」と訳されている原語はメガス(large, big, great) の比較級で「より大きい」です。するとイエス様が 25 節で言われている内容も理解できます。人民を苦しめ、自分の地位を守るためにローマに火を放った皇帝ネロも「守護者」と呼ばれていたそうです。私たち人間がそのようになり得ることは、今の世界を見ても分かることです。イエス様は、権力をふるい、したい放題するためにより多く持ち、より上に立つ、そのようなことが「偉い」ではないと教えられたのです(福井達雨のお母さんが教えた「偉い人より立派な人になりなさい」)。

3 (28) 完成した信仰者はいない。そのことの自覚が大事。

ここでイエス様は使徒たちを誉められ、また感謝されます。主は私たちの信仰の未熟さを責められるのではなく、その成長を見つめ、さらに深いものとなるよう取り組むことを喜んで下さるお方なのです。

4 (29-30) 神様が与えて下さる「支配権」(29)とはどんなもの？

29-30 節を読んで、「なんだ、結局、神の国で上席につけるといいうなら同じじゃないか」と思われる方がいるかもしれません。しかし、ここで用いる用語は全てこの世的な意味から 180 度変えられた内容であることを押さえて読まなければなりません。しかし、それはこの世でも本来用いられるべきものでもありました。「支配権」(29)は創世記 1 章 26～28 節に出て来る「支配させよう」にもあてはまる内容で、ここでも実は、したい放題できる支配ではなく、神様が造られた被造物全てが調和を持って存在し、喜べるために管理・運営・世話する(stewardship)、むしろ仕える役割を神様は人間に与えられたのです。ここに戻るためにイエス様の死と復活は与えられたのです。